

## 関東大震災から101年目 ―自分事として準備を―

本日の避難訓練は、地震を想定してのものでした。避難訓練としては今年度2回目となります。1回目の訓練は4月でした。今回同様に地震を想定し、主に避難経路の確認を行いました。その際には「備えあれば憂いなし」ということわざを紹介し、災害に備え、準備することの大切さをお話しました。第2回目の今回は、地震の後にもし火災が起きたら…というお話をします。

1923年9月1日、東京・神奈川を中心とする南関東で大きな被害を出した関東大震災が発生をしました。昨日が101年前となります。関東大震災では、主に火災により、10万人以上の方が亡くなるとともに、東京や横浜では6割の家屋が破損し、多くの住民が家族と住居を失いました。関東大震災で地震のあとに大規模な火災が発生したのは、地震が発生した時間も影響したようです。午前11時58分でしたので、各家庭では昼食の準備をしているところでした。現代とは異なり、電気やガスではなく、火を起こしての調理です。地震がきてもすぐに火をとめることはできません。それに加え、家屋が木造建築であったことや、当日の風の向きや強さも影響したのだと思います。それから100年が経過した現代においても、地震のあとの火災は十分に想定しなくてははいけません。

火災から身を守る対処等については、小学校の時から繰り返し教わってきたでしょう。ポイントは火災の「煙」です。一酸化炭素を含む煙を吸い込むことで、一瞬で呼吸困難に陥り、命を落とすことが少なくないそうです。ですから、避難の際には「口と鼻をハンカチ等で押さえ、身を低くして避難すること」が重要です。頭の中で、火災が発生したら…とシミュレーションすることも大事な準備の1つです。

先ほどは100年ほど前の関東大震災を例にしましたが、災害は頻繁に発生しています。この夏も8月8日 午後4時43分に九州・宮崎県で震度6弱の地震が起きました。多大なる被害です。その直後「南海トラフ地震臨時情報」が出され、大地震に備えた緊張が、日本列島を包みました。災害は決して他人ごとではありません。「備えあれば憂いなし」。自分事として準備を進めておきましょう。